

授業科目名	日本とヒロシマの歴史		
授業科目コード	2-10530-01	ナンバリング	0(5)3456
代表教員名	沼田 有史	オフィスアワー	授業時間後、教室等にて質問に応じる
担当教員	沼田 有史		
院・学部・専攻・学科・コース	教育学部・人間科学部 全学科		
科目・資格区分	現代教養科目A		
開始学期	後期	単位数	2単位
履修可能対象年	カリキュラムにより異なります。	他学部等履修	
曜日・時限	木曜2限		
履修条件			
授業のねらいと概要	私たちは過去（歴史）を土台として現在に生き、未来を創造している。歴史は昔の人々が様々な状況のなかで、少しずつ創意工夫をこらしながら、今の世界を築きあげてきたことを教えてくれる。私たちはそこから「いま・ここ」に生きていることの素晴らしさや難しさを知るとともに、自らが生きていくうえでの糧をみいだしていくのである。 この授業では、身近な可部の町の歴史からはじまり、広島 of 古代から被爆、その後の国際平和文化都市建設にいたるまで、日本の歴史を絡めながら近現代史を基軸としてヒロシマの歴史を紐解いていく。そこでは自らの人生を省みる契機となるよう、また新たな人生に踏み出そうとする意欲をかきたてるものとなるよう、できるだけ映像等を使用して、わかりやすく学べるように工夫する。 なお、本授業は広島市郷土資料館館長の実務経験をもつ教員が、広島の歴史について多様な資料を用いながら情報提供し、学びを深める機会を提供する。 留学その他の理由で、正式な手続きを経てオンラインでの受講を希望する者に対しては、オンライン受講を認める。感染症等により全学的に非対面授業の実施が求められた場合には、Microsoft Teamsを利用してオンライン授業を実施する。		
双方向性確立の方法	授業時間後、教室等にて質問に応じる。課題やメッセージカード等により理解度を確認、感想や要望等を受けて授業で紹介、反映させていく。 なお、オンライン授業を実施する間は、メール等にて質問に応じる。		
授業計画			
第 1 回	テーマ	ガイダンス	
	キーワード	太田川、広島城、被爆、国際平和文化都市	
	内容	今、私たちが生活している広島の歴史と一緒に俯瞰してみよう。またこの授業の構成と進め方、注意事項等を説明する。	
	事前学修	広島で過去にあったこと、昔の広島の生活を調べる。（2 時間）	
	事後学修	広島 of 歴史の流れを整理し、全体像を把握する。（2 時間）	
第 2 回	テーマ	可部の町の歴史	
	キーワード	山繭織り、街道、舟運、松本清張	
	内容	私たちの学んでいるこの土地にも歴史があり、人々が生活してきたことを意識しよう。可部の町が栄えるきっかけとなった山繭織りや舟運、街道について解説する。特に作家松本清張を絡めて可部の町を考える。	
	事前学修	山繭織りの糸は何からできているか。可部の町に残る旧家と山繭織りの関係を調べる。（2 時間）	
	事後学修	配布資料を読んで自分の視線で可部の歴史をまとめ、地図と照合する。（2 時間）	
第 3 回	テーマ	広島築城まで	
	キーワード	比治山貝塚、中小田古墳群、山陽道	
	内容	広島では広島城が築城される以前にも人々の生活があった。その痕跡をとらえて現在の生活と共通する点があることに気づく。比治山貝塚や中小田古墳群などの遺跡から古代の人々の生活を感じる。	
	事前学修	広島にある古代の遺跡を調べ、そこから見える特性を考える。（2 時間）	
	事後学修	当時の旅人がどのようなルートを通っていたか調べ、地図で確認する。（2 時間）	
第 4 回	テーマ	広島築城とその後	
	キーワード	毛利輝元、福島正則、浅野長晟、西国街道	
	内容	何故、太田川河口の中洲に城を建てたのか。戦国時代の流れから広島を読み解く。毛利、福島、浅野と城主が変遷する過程を理解し、現在の私たちの生活に当てはめてみる。	
	事前学修	広島築城当時の広島の様子について事前知識を学習する。（2 時間）	

	事後学修	今の広島市の街に残っている広島城の痕跡をまとめる。（2時間）
第5回	テーマ	近世以降の生活（1）－牡蠣・海苔養殖
	キーワード	干拓、牡蠣養殖、海苔養殖
	内容	広島市街地がどのように形成されてきたか、海と広島の結びつきをみる。またそこでおこなわれた牡蠣養殖や海苔養殖の変遷を知るとともに、現在の生産状況を把握する。
	事前学修	広島市の牡蠣養殖や海苔養殖について、現在の状況を調べる。（2時間）
	事後学修	配布資料をもとに自然（地形）と人間の生活の関係性についてまとめる。（2時間）
第6回	テーマ	近世以降の生活（2）－広島から世界へ
	キーワード	対馬、向洋、宮本常一、ハワイ移民
	内容	対馬に渡った広島人を知ることにより当時の生活を顧みると同時に、その後のハワイ移民や現在の広島の国際化を考える。
	事前学修	近世、近代、広島に暮らしていた人々の生業を調べる。（2時間）
	事後学修	移民の生活実態について調べることにより、当時の広島の生活実態に迫る。（2時間）
第7回	テーマ	明治維新、近代都市への歩み
	キーワード	第5師団、千田貞暁、山陽鉄道
	内容	港と鉄道が整備されていく近代都市としての広島の形成過程を追うことにより、明治維新後の日本の近代国家形成を理解する。
	事前学修	広島市南区宇品の干拓について現在の地図で位置を確認、当時の物資等の輸送手段について考える。また唱歌「みなと」について調べる（2時間）
	事後学修	配布資料から当時の宇品港の様子がわかる個所を地図上で確認し、それぞれの特性をより詳しく調べる。（2時間）
第8回	テーマ	日清戦争
	キーワード	広島大本営、臨時帝国議会、日清戦争凱旋碑
	内容	広島は日清戦争を契機として兵站基地としての機能を有することとなり、臨時帝国議会が開かれるなど繁栄を極めたことを知る。
	事前学修	広島における臨時帝国議会がどこでおこなわれたか地図上で確認するとともに、帝国議会の歴史について調べる。（2時間）
	事後学修	宇品平和塔（日清戦争凱旋碑）について、建立から現在までの過程をまとめる。（2時間）
第9回	テーマ	兵站基地としての広島
	キーワード	陸軍糧秣支廠、陸軍兵器支廠、陸軍被服支廠
	内容	広島には後方支援基地として多くの軍事施設が造られ、全国から兵隊や物資が広島に集まり、宇品港から戦地に向かった実態を理解する。
	事前学修	広島城内にあった第5師団司令部について、今までの授業も含めて調べる。（2時間）
	事後学修	配布資料により今も残る軍事施設跡を確認し、当時の広島の様子を把握する。（2時間）
第10回	テーマ	太平洋戦争と原子爆弾投下
	キーワード	マンハッタン計画、ポツダム宣言
	内容	日本は太平洋戦争に突入、アメリカはマンハッタン計画により原子爆弾を製造し、広島へ投下する。原子爆弾の製造から投下までの流れを学ぶ。
	事前学修	太平洋戦争が始まったころの広島の様子を調べる。（2時間）
	事後学修	原子爆弾について新しく知ったことをまとめる。（2時間）
第11回	テーマ	広島の被爆被害
	キーワード	佐々木禎子さんの折鶴、折免滋さんの弁当箱
	内容	広島への原爆投下の経緯と被害の実情を理解し、被爆者とその家族などの苦悩に接する。一例として旧広島県立第一高等女学校の生徒たちの被爆状況を考える。
	事前学修	原爆の被害状況について多角的に調べ、できるだけ多くの事例をまとめる。（2時間）
	事後学修	授業以外の資料を探して被爆者の体験記を読み、当時の広島の惨状を実感する。（2時間）
第12回	テーマ	戦後復興

	キーワード	広島平和記念都市建設法、平和記念公園、イサム・ノグチ
	内容	戦後の復興時のさまざまな人々の苦難と努力を知る。特にイサム・ノグチの立場から当時の世相を顧みる。
	事前学修	平和公園にどのような碑があるか調べる。（２時間）
	事後学修	平和公園、平和大橋、西平和大橋とイサム・ノグチの関係についてまとめる。（２時間）
第13回	テーマ	今も残る被爆の痕跡
	キーワード	広島県産業奨励館、中国軍管区司令部防空作戦室、燃料会館
	内容	現在も残っている被爆の痕跡から多角的に原爆被害の実相を知る。
	事前学修	広島県産業奨励館の設計者について詳しく調べる。（２時間）
	事後学修	授業以外の被爆の痕跡をまとめるとともに、地図上で位置を確認する。（２時間）
第14回	テーマ	平和への歩み
	キーワード	平和記念式典、平和首長会議、核兵器禁止条約
	内容	平和記念式典の歩みを紐解くことにより、現在行われている様々な平和への取り組みを理解する。
	事前学修	平和への取り組みとしてどのような活動があるか調べる。（２時間）
	事後学修	近年の新聞記事等から、今現在推進されている平和関連活動をまとめる。（２時間）
第15回	テーマ	持続する歴史
	キーワード	表象の不可能性、記憶の風化
	内容	戦後の広島現代史について産業活動などを中心に重要事項を概説する。 最後にすべての授業を振り返り、歴史には一方向から見てしまう危険性や、一時点で切り取ることでできない持続性（時間）の問題があることを再確認する。
	事前学修	自分なりにヒロシマ（広島）の歴史を整理する。（２時間）
	事後学修	ヒロシマ（広島）の歴史から自分が教えられたこと、感じたこと、考えたことをまとめる。（２時間）
期末試験		実施する
到達目標	本講義を受講することにより、学生は次のことが身に付く。 ① ヒロシマ（広島）の歴史における重要事項を把握する。 ② 古代から現在まで、どのような歴史の流れの上に今の広島があるか理解できる。 ③ 日本近現代史からみたヒロシマ（広島）の特質を明確に説明できる。	
成績評価方法	授業への参加度合い（２０）、授業中実施する課題（３０）、試験（５０） なお、レポートおよび試験（論述式）の評価にはコモンルーブリックを用いる。	
成績評価基準	到達目標①～③のすべてにおいて、一定水準以上であると確認できる場合：S 到達目標①～②において、一定水準に達していると確認できる場合：A 基礎的な到達目標①を中心に、一定水準に達していると確認できる場合：B 到達目標①～③について、望ましい水準ではないが評価はできると確認できる場合：C 授業への参加の度合いが十分でなく、到達目標に達していないと確認できる場合：D	
テキスト	配布資料による。	
その他教材	『参考図書』 広島文教女子大学人間科学研究所 『陰陽路の歴史と風景』 溪水社 2001 頼祺一編 『広島・福山と山陽道』 吉川弘文館 2006 山口徹編 『瀬戸内諸島と海の道』 吉川弘文館 2001 坂根嘉弘編 『西の軍隊と軍港都市 中国・四国』 吉川弘文館 2014	
その他	本科目は、本学の「卒業認定・学位授与の方針」の(5)「豊かな人間性」の修得・育成に寄与している。	